カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇フランシスコにより5月31日発表

ペトロ中村倫明師 長崎大司教区補佐司教に任命

教皇フランシスコは、5月31日（金）ローマ時間正午（日本時間同日19時）、長崎大司教区司祭のペトロ中村倫明（なかむら みちあき）師を、長崎大司教区の補佐司教に任命すると発表した。

中村被選司教は1962年3月21日長崎県西海市生まれ。88年司祭に叙階され、ローマ留学、小神学校や大神学校での養成者などを経て、現在、三浦町小教区主任を務めている。

髙見三明大司教は「長崎の教会だけでなく、日本の教会にとっても朗報です。父である神に感謝をささげると同時に、主キリストが聖霊を通して中村倫明被選司教様のご健康と新しい任務の遂行を見守り祝福してくださるよう祈りましょう」とコメントした。

中村倫明 被選司教の略歴

1962年3月21日長崎県西海市生まれ。太田尾教会出身。88年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年4月長崎公教神学校（現長崎カトリック神学院）。89年中町教会助任。91年ローマ留学。94年長崎カトリック神学院。99年4月浦上教会助任。2002年4月時津教会主任。05年4月福岡サン・スルピス大神学院（現福岡カトリック神学院）養成者。07年2月植松教会主任。13年4月三浦町教会主任。19年5月31日長崎教区補佐司教に任命される。

中村倫明 被選司教 司教叙階式

日時　9月16日（月）午後1時
場所　司教座聖堂 浦上教会
司式　ヨセフ 髙見三明 大司教

「津和野の証し人」37人の列聖調査開始に伴うお願い

広島教区列聖委員会 委員長　白浜 満 司教

今年2月5日にローマ教皇庁の列聖省から正式な承認を受けて、広島教区は、「浦上四番崩れ」で流配され命をささげた方々の代表（象徴）として、津和野（島根県南西部）の37人の列聖調査を開始しました。長崎教区の皆様にお祈りとご支援をお願いするため、このたび長崎教区報に、津和野の証し人の列聖調査の公示を掲載していただくことになりました。今後とも、この列聖運動のために皆様のお祈りとご支援をよろしくお願い申し上げます。

「津和野の証し人」列聖調査開始の公示

【趣旨】

長崎における信徒発見（1865年）後に、「浦上四番崩れ」（1867年）と呼ばれるキリスト教への弾圧が起こりました。江戸幕府によって行われた迫害は明治政府に引き継がれ、約3300人もの浦上の信徒たちが捕縛されて、明治初期に西日本の20藩22カ所に流配されました。そして、キリシタン禁令の高札が廃止（1873年）されて浦上に帰還するまでの間に、信仰を証しして命をささげた方々がいました。その為、日本の社会に信教の自由をもたらす「一粒の麦」となったこれらの証し人たちを、教会の公的な記念としたいという多くの声が寄せられてきました。これらの方々の生き方を顕彰し、信教の自由の精神を近隣諸国に広げていくため、キリシタン禁令の高札が廃止されて150年目となる2023年は一つの節目になります。

【列聖調査開始】

広島教区は、日本司教協議会の同意と教皇庁列聖省の承認（2019年2月5日）を受けて、この4月には「津和野の証し人列聖調査委員会」を発足させ、流配された浦上の信徒たちの代表（象徴）として、まず津和野の証し人37人の列福（列聖に向かう第一段階）のための公式な調査を開始する運びになりました。そのため、5月3日（金）に開催された津和野の「乙女峠まつり」において、前田万葉枢機卿司式により「列聖調査開始宣言ミサ」をささげ、約1800人の方々が参加してくださいました。また、6月11日（火）に「津和野の証し人 列聖調査委員会」が立ち上げられ、本格的な調査を開始しました。

【ご支援のお願い】

津和野の証し人の公式な調査のために有用と思われる資料（関係する書簡類、日記、メモ、書籍など）をお持ちの方は、広島教区事務局（☎082-221-6017）までご連絡いただけますと幸いです。また、この列聖調査を推進していくため、広島教区は「明治初期・津和野の証し人 列聖推進協議会」を立ち上げて加入者（法人会員・個人会員）を募り、祈りや献金（1年に一度）などによる組織的なご支援をお願いしています。この推進協議会への加入をご希望の方は、広島教区事務局へお問い合わせください。案内の資料をお送りします。そして、随時に自由な形でのご支援をお願いするために、後日、パンフレットを作成して、今後の列福・列聖に向けた調査のための募金を呼び掛けたいと思います。このパンフレットの郵送をご希望の方も、広島教区事務局へご一報くだされば幸いです。どうか皆様のご理解とご支援をよろしくお願いします。

「教皇様についての講演会」開催される

レンゾ師と髙見大司教が登壇

フランシスコ教皇来日への期待が高まる中、長崎大司教区は6月1日（土）13時からカトリックセンターで「教皇様についての講演会」を開催した。当日は教会内外から集まった約260人が、イエズス会日本管区長のデ・ルカ・レンゾ師と髙見三明大司教の話を熱心に聴いた。

講演に先立っては、1981年聖ヨハネ・パウロ2世教皇が来崎した際の記録映像を皆で鑑賞し、38年前の出来事に思いをはせた。続く講演会は、初めにレンゾ師が登壇。かつて教皇がイエズス会の養成担当者を務めたときに神学生だったという同師は、教皇の人柄や人々に向かう姿勢について、いくつかのエピソードを交えて語った。

「（教皇は）人々が教会に来るのを待つのではなく探しに行くのだという姿勢だった。これは今の教会にも必要な姿勢」だと話し、「教皇は、教会は人々と交わり関係を深めるべきだと考え、交わることは簡単なことではないが、見事にそれを（行動で）示している。日本の教会の人たちと会いたい、交わりたいと望んでおられる。私たちも教皇と同じ姿勢をもって、訪日を単なるイベントで終わらせるのではなく、教皇を通して世界の教会と関わりいろんな話を聴いていくことが大事。教皇のメッセージに関心を持ち、調べたり分かち合ったりして、ヨハネ・パウロ2世教皇のときと同じく、生涯心に残るよう一人ひとりが準備していくことが必要だ」とまとめ、訪日実現への期待を言葉に込めた。

また髙見大司教は、日本カトリック司教協議会の教皇訪日招待の経緯や、教皇訪日の目的と意義に触れ、最後に訪日実現のために祈るよう呼び掛けた。その後、質疑応答（写真）があり、教皇について知り、学ぶ機会となった。

聴講した男性信徒は、「ヨハネ・パウロ2世教皇が来られた時、車椅子の母と一緒に松山（陸上競技場）でのミサに参加し、大村空港にも行ったことを思い出しました。貧しい人々に寄り添っておられる現教皇様の来日が、日本の教会や人々にとってどのようなものになるのか。正式発表の前で見えない状態ですが、これから一人ひとりが当事者意識を持って向かっていくことができるよう、道しるべがあってほしいです」と語っていた。

教皇訪日 長崎実行委員会から

問合先と今後の情報公開について

教皇フランシスコが昨年9月に初めて日本訪問の意向を表明して以来、長崎においては教皇の来崎に期待を寄せるとともに、1981年聖ヨハネ・パウロ2世教皇が来崎した当時の体制・対応が度々思い返されてきた。

そこで長崎教区では、バチカンからの正式発表を心待ちにする一方で、教皇をお迎えする具体的な準備に取り掛かるための「教皇訪日長崎実行委員会」（中村満委員長）を今年3月31日に立ち上げている。

教皇訪日に関する問い合わせ全般は下記の事務局までお願いしたい。今後、新しい情報が公開された際には、本紙『カトリック教報』や長崎大司教区ホームページなどを通してお知らせしていく。本紙は月1回の発行だが、ホームページは随時更新されるので、できる限り注意して見ていただき、共通理解を図ってほしい。

「教皇訪日長崎実行委員会」事務局
〒852－8113　長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
電話 095－846－5366
ファックス 095－846－5377
メール papasama_francis@yahoo.co.jp

人事異動・任命

（　）内は前任地

▼マリア会（4月1日付）
末吉　克久師　海星修道院（東京・地区本部）
池田　紀行師　大阪教区・仁豊野のマリア・ヴィラ（海星修道院）

ほしかげ

志願者の時、暑い夏のある日、蚊の活発な働きに悩まされている同級生の一人をみていた志願院長が私たちを集めてこのように問いかけてきた。「蚊が人の血を吸うことは神のみ旨にかなっているでしょうか、かなっていないでしょうか。善と悪どちらになるのでしょうか」▲私たちは皆このように考えた。「蚊の吸血活動は命を維持するための活動であって、決して悪ではない。むしろ創造の秩序を守り、神の摂理に素直に従っている働きではないか。魚や牛や鳥など他の生き物の命をとり、自分の生きる力にしている人間の食生活と全く同じではないだろうか」と▲8月はいろいろと私たちを悩ませることが多い時期であることは間違いない。高温多湿による不快感、害虫と呼ばれている小虫たちの活発な生命活動、そして避けることのできない平和という最も重いテーマが私たちに問いかけてくる。しかし皆の兄弟、平和の使徒と呼ばれているフランシスコ会の修道者である私は、この重いテーマを単純に考えてみたい。蚊の吸血活動が神の善であるように、それぞれに与えられた存在の理由を尊重し、摂理に従い、他の存在のものを奪い取ろうとしないこと、これこそ平和の土台、神からの平和ではないだろうか。この8月、神の国からの平和がここで実現できるよう祈りつつ、神様が与えてくださる平和を満喫する8月でありますように―。（炫）

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」　教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす⑦

宣教司牧を考える

コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭　水浦 征男

信徒発見から始まったパリミッションの活動

カトリック教会の宣教活動は、進展しているか。ここ長崎教区の場合を考えてみたい。1865年3月17日、潜伏していた浦上キリシタンが、250年ぶりに大浦天主堂でプティジャン神父に信仰を打ち明けた。これを機に、大浦天主堂からパリミッション（パリ外国宣教会）の宣教師たちは、浦上を訪れ、潜伏信者の発掘、指導に乗り出した。密かにミサを行い、告解や聖体の秘蹟を授けた。宣教師の来日はキリシタン潜伏地であった五島や福岡県今村などにも伝わり、信者代表が密かに大浦を訪れ、宣教師の指導を仰いだ。

しかし、浦上四番崩れで再び、キリシタン迫害が起こり、下五島の久賀島や水ノ浦で激しい拷問が行われた。

明治5年、浦上キリシタンたちが「旅」から戻って、ようやく表向きの信仰の自由がもたらされた。キリスト教が解禁された明治初期からパリミッションの司祭たちが長崎、五島、平戸などで司牧活動を開始した。少ない人数で、交通機関もない時代、宣教師たちは徒歩で山道を踏破して司牧にあたった。その苦労が実って、各地に信徒集団が現れ、小教区を形成した。信徒の住む集落を司祭が訪問して、秘蹟を授ける体制ができた。やがて、邦人司祭が少しずつ生まれ、パリミッションの司祭に代わって司牧を担当するようになった。

教区の信者数は減少傾向

昭和2年、長崎教区に日本で初めての邦人司教、教区長が生まれた。徐々に小教区は増え、信徒数も増加した。2015年3月17日、長崎では「信徒発見150周年」を祝った。それから4年、2019年1月現在の小教区の数は、72カ所、教区在住司祭は教区司祭、修道会司祭あわせて134人。明治初期から150年間に長崎県の小教区も邦人司祭も増加した。しかし信徒数は少子高齢化で、徐々に減少している。浦上小教区は、信徒数ざっと1万人と言われたが、今年の統計で6500人になっている。教区全体でも6万人を割り込もうとしている。このままでは、信徒数は減少の一途をたどるのではないだろうか。

カトリック教会の活動は宣教司牧である。これまでの長崎の活動は、どちらかといえば、「司牧」が主で、「宣教」は手薄ではなかっただろうか。

日本のカトリック人口は38年前と同じ？

38年前、教皇ヨハネ・パウロ2世が来日されたとき、マスコミは日本のカトリックは約45万人と報道した。今年はどうだろうか。おそらく、今回も同じように、約45万人と紹介するのではないか。カトリック中央協議会の最新の統計では、信徒数は44万8332人になっている。38年前と信徒数がほぼ同じ、というのは、通常考えられない。いくら少子化とはいえ、宣教活動が活発であれば、信徒数の増加が見られるはずである。やはり、教会活動の停滞を認めなければならないだろう。

このところ、司祭の高齢化にともなう引退により、小教区の閉鎖・統合が相次いでいる。一例を挙げれば、大分教区のカトリック由布教会。ここは、1970年代にコンベンツアル聖フランシスコ修道会によって、由布岳の麓に開かれた小教区で、約40年間、毎日曜日、定時にミサが行われていた。しかし、2019年版のカトリック教会・情報ハンドブックによれば由布教会は（集）となっており、小教区はなくなり、集会所に変わっている。主日の定時のミサはなくなっている。湯布院は九州では有名な観光地として人気がある。ここを訪れる観光客は多い。その中にはカトリック信者も含まれる。観光客にとって、日曜日に旅先でミサに与れるのはありがたい。観光客の多い湯布院の教会がなくなったことは、残念である。由布小教区の存続が危ぶまれる段階で、教区を超えた形で広く司祭の派遣を呼びかけることができていたら、どうだろうか。活発な活動は無理でも、日曜日にミサをささげられる司祭はいなかっただろうか。一度根を下ろした教会が撤退してしまうのは、いかにも惜しい。湯布院という、人気の町のカトリック教会がなくなってしまうのは、大きな損失のように思われる。長崎教区は、全国一のカトリック県である。いちばん聖職者数にも恵まれている。これまで以上に、他教区の司祭不足に手を貸す運動を積極的にすすめてもらいたい。

壱岐市、対馬市、南島原市には司祭常駐のカトリック教会がない

長崎教区には、長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、島原市、平戸市、松浦市、五島市、雲仙市、南島原市、西海市、壱岐市、対馬市の13の市がある。そのほとんどの市にカトリック教会がある。カトリックの教会（小教区）がないのは、雲仙市は別にして、壱岐市、対馬市、南島原市の三つである。この三つの市にもカトリック教会を根付かせることはできないだろうか。壱岐市、対馬市の人口は、2万6千人と3万1千人である。二つの島にはカトリック信者が少ないということで、昔から教会がなく、したがって、宣教活動はほとんどされていない。現在は、壱岐市には民家風の聖堂があり、大村・水主町教会の巡回教会になっている。また、対馬市では、厳原町の聖公会聖堂が大村・植松教会の巡回教会となっている。いずれも月に一回、日曜日のミサがささげられている。

カトリック以外のキリスト教会では、「開拓伝道」という言葉が聞かれる。クリスチャンがほとんどいない地域に入って、宣教活動をする。キリスト教には無縁の都市に住み込んで活動するのは、そう生やさしいものではない。経済的にも人材的にも困難はつきまとう。

しかし、昔に比べれば、現代ははるかに恵まれた、便利な時代である。移動には自動車があり、通信手段には携帯電話がある。明治時代の宣教師たちはでこぼこ道を、重たいミサ用具を携えて、何時間も歩いて集落から集落を訪ねていたのである。

壱岐市や対馬市に教会の拠点を置き、宣教活動を始めることができれば、いつの日か、実りを得ることを期待できると思う。どんな活動ができるか。そこは、知恵を絞って、考えよう。カトリック教会の看板を掲げ、開かれた教会をアピールする。常時、キリスト教入門講座を設け、勉強会を開く。集客力のある講師を招いて、講演会を開催する。図書館を設け、一般に開放する。子ども食堂を運営する。などなど、地域にマッチする活動を考えて、実行可能なところから始める。

信者のいないところで教会を維持するのはどうするか。必要な資金は、教区からの援助に頼らざるを得ない。たとえば、現在の教会維持費に「宣教費」という名目を付けて、各小教区に少しずつ負担してもらう。そのことによって、各信者が「福音宣教」に参加しているという自覚を持つことができるだろう。

昔キリシタンが栄えた地に再び教会を

2018年7月、長崎県に世界遺産が生まれた。潜伏キリシタン関連遺産である。その中の一つに島原半島の原城跡がある。かつて、島原半島には多くのキリシタンが住んでいた。イエズス会の司祭たちが多数いて、セミナリヨも開校された。しかし、島原の乱でキリシタンが全滅、キリスト教の施設はなくなってしまった。かつてのキリシタンゆかりの遺跡は、現在の南島原市に数多く残っている。昔のキリシタンゆかりの地に、再び現代のカトリック教会が復活したら、どんなに素晴らしいだろうか。現在、かつてのセミナリヨを模した催しが自治体によって行われている。38年前、ヨハネ・パウロ2世の訪日を機に、雲仙にカトリックの聖堂が誕生している。今年のフランシスコ教皇の長崎訪問を記念して、イエズス会の宣教師ゆかりの南島原市にカトリック教会をよみがえらせることはできないだろうか。それは、新たな長崎教区の宣教活動の幕開けになると思う。

教皇様へ霊的花束を

祈りの折鶴 大募集

教区家庭委員会（中濱敬司委員長）は、今秋に訪日が期待されている教皇フランシスコを迎える準備として、「祈りの折鶴」の製作を呼び掛けている。

「教皇様への祈り」を教区全体で共通の祈りとし、さらに教皇の意向に合わせた祈りを任意の祈りとする。そして、長崎に多く見られる〝家庭の中で受け継がれた信仰〟を表す意味で、家庭で祈り、1羽の折鶴に託し贈呈する、という計画。

募集期間は8月1日から8月31日まで。折鶴は各小教区で取りまとめて霊的花束とし、それを教区全体で千羽鶴に製作し、教皇に贈呈する。詳細は各教会に配布の案内から確認できる。

問合先・家庭委員会（辻）TEL095-842-4450

新刊良書

★けんそんのしおり（改訂版）

著者＝教皇レオ13世　訳者＝デランジェラ

19世紀末の閉塞したカトリック教会において、世界宣教と教会の再生に心血を注いだ教皇レオ13世が黙想のおりに記した思索のことばをまとめた一冊。日本語訳初版発行1953年のロングセラーが、読みやすい大きめ文字になって新登場。ドン・ボスコ社、税別300円。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村 勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦 幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士 山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル

2018年度決算に関する報告　カトリック長崎大司教区

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	437,299,385
教区費	114,620,345
信　徒	102,850,345
司　祭	8,440,000
修道会	3,330,000
特定献金	30,281,191
神学生養成援助費（封筒）	11,339,546
世界広報の日献金	2,090,790
聖ペトロ使徒座への献金	6,362,450
世界難民移住移動者の日献金	2,133,579
世界宣教の日献金	2,191,466
宣教地召命促進の日献金	2,279,252
世界こども助け合いの日献金	3,884,108
特別献金	35,267,586
寄付金	22,075,299
献金収入（本部関係）	12,952,287
ミサ奉納金（ビナチオ・トリナチオ）	240,000
諸委員会活動費	4,660,841
(1) 信仰養成部	1,169,920
信仰教育委員会	130,520
生涯養成委員会	641,000
青少年委員会	0
信仰養成部	398,400
(2) 福音化推進部	628,500
人権委員会	0
福祉委員会	0
平和推進委員会	582,000
エキュメニズム・諸宗教委員会	46,500
福音化推進部	0
(3) 召命委員会	0
(4) 典礼委員会	282,200
(5) 家庭委員会	1,249,252
(6) 広報委員会	999,902
(7) 教区本部事務局	331,067
(8) 教会歴史文化遺産評議会	0
(9) 子どもと女性の人権相談室	0
その他の収入	252,469,422
保険金収入	600,000
受取利息	504
非課税事業収入	5,422,412
小教区拠出金	221,953,642
雑収入	15,969,864
司祭年金基金拠出金	2,463,000
退職給与引当金拠出金	5,250,000
裁判所手続費納入金収入	810,000
2．経常外収入の部	156,764,165
繰入金収入	154,952,816
特別会計財務資金繰入収入	151,000,000
殉教者顕彰委員会会計より繰入	3,952,816
その他の収入	1,811,349
預り金等収支差額	1,811,349

科　目	決算額
3．前年度繰越金	67,946,656
収入の部合計	662,010,206

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	550,316,556
宗教活動費	7,270,836
祭儀費	2,835,643
特別行事費	401,340
助成金（小教区）	1,990,252
教区評議会	2,043,601
諸委員会活動費	23,256,413
(1) 信仰養成部	4,042,729
信仰教育委員会	209,102
生涯養成委員会	939,211
青少年委員会	1,656,513
信仰養成部費	1,237,903
(2) 福音化推進部	3,263,191
人権委員会	1,138,895
福祉委員会	0
平和推進委員会	1,922,236
エキュメニズム・諸宗教委員会	199,060
福音化推進部費	3,000
(3) 召命委員会	650,881
(4) 典礼委員会	873,241
(5) 家庭委員会	2,187,860
(6) 広報委員会	6,137,885
(7) 教区本部事務局	1,737,129
(8) 教会歴史文化遺産評議会	2,919,975
(9) 子どもと女性の人権相談室	1,443,522
負担金	30,855,400
カトリック中央協議会	24,006,951
使徒座	6,848,449
神学生養成費	67,179,276
日本カトリック神学院	31,837,391
長崎カトリック神学院	25,000,000
福岡コレジオ	9,940,500
大神学生諸経費	401,385
司祭生涯養成費	2,682,645
黙想研修会	2,488,685
海外留学費	193,960
不動産管理費	1,589,281
管理費	869,409
租税公課	719,872
人件費	331,283,746
聖職者（本部関係）	22,736,000
聖職者（小教区）	171,310,000
引退司祭	20,666,080
職員（本部関係）	68,462,967
職員（小教区）	48,108,699
福利厚生費	38,177,727
法定福利費（本部）	33,254,927
法定福利費（小教区）	2,534,943
福利厚生費	123,854
福利厚生費（医療費）	832,753
医療共済制度（カリス）	1,431,250
維持管理費	19,229,027
大司教館	13,334,905
カトリックセンター（管理部門）	5,894,122
事務費	19,296,135
教区管理費	17,286,507
法人事務所	199,628
長崎教会管区裁判所	1,810,000
その他の支出	7,761,782
非課税事業支出	7,761,782
雑費	1,734,288
2．経常外支出の部	6,649,000
財務支出	3,649,000
奨学金貸付	3,649,000
積立金支出	3,000,000
大司教活動資金会計	3,000,000
3．次年度繰越金	105,044,650
支出の部合計	662,010,206

カトリックセンター事業部門

〔収入の部〕

科　目	決算額
宿泊収入	40,532,999
会議室収入	1,283,200
レストラン収入	6,203,734
売店収入	297,279
営業雑収入	566,814
受取利息収入	110
雑収入	70,213
退職引当預金取崩収入	0
預り金等収支差額	11,699
前年度繰越金	15,730,517
収入の部合計	64,696,565

〔支出の部〕

科　目	決算額
食材仕入支出	3,833,154
売店仕入支出	473,505
消耗品費	1,976,019
通信費	217,278
旅費交通費	87,520
水道光熱費	5,060,562
接待交際費	73,741
諸会費	121,900
車輌費	137,405
修繕費	274,104
保険料	463,670
保健衛生費	2,070,691
公租公課	4,728,203
リース料	430,833
広告宣伝費	39,720
支払手数料	1,772,590
雑費	1,901,600
寄付金	357,000
研修費	150,191
給与手当	21,818,893
福利厚生費	287,929
法定福利費	1,896,552
備品取得支出	3,802,140
退職引当金預金支出	729,657
次年度繰越金	11,991,708
支出の部合計	64,696,565

2019年 四旬節愛の献金

総額 6，1 1 1，0 1 6円（6/4現在）

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金いただいている分もあります。

皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

2018年度決算に関する報告　72小教区決算集計表

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	1,176,344,680
宗教活動収入	888,060,127
教会維持費	396,394,335
ミサ献金	108,714,583
ミサ奉納金	190,077,728
祭儀献金	58,216,357
寄付金収入	69,538,146
教区補助金	3,781,850
その他の献金	49,098,764
行事収入	9,382,166
非課税事業収入	2,856,198
維持管理収入	101,161,688
積立金収入	77,324,390
墓地納骨堂管理費収入	23,837,298
預り金・献金収入	149,459,587
教区費	106,112,982
神学生養成援助費（封筒）	10,436,384
世界こども助け合いの日献金	2,142,134
世界広報の日献金	2,093,758
聖ペトロ使徒座への献金	2,283,666
世界難民移住移動者の日献金	2,157,574
世界宣教の日献金	2,110,727
宣教地召命促進の日献金	2,161,834
特別献金	1,391,014
一菜募金	6,682,231
クリスマス募金	4,390,939
カリタスジャパン募金	5,451,904
その他の募金	2,044,440
その他の収入	37,663,278
受取利息	65,500
雑収入	37,597,778
2．経常外収入の部	140,195,565
資産運用収入	19,500
資産運用収入	19,500
土地売却収入	0
器具備品売却収入	0
繰入金収入	92,142,773
退職給与引当金繰入収入	0
特別目的預金取崩収入	92,142,773
借入金収入	1,670,000
内部借入金収入	1,670,000
外部借入金収入	0
その他の収入	46,363,292
預り金収入	4,162,097
その他の経常外収入	42,201,195
3．前年度繰越金	662,065,358
収入の部合計	1,978,605,603

	2017年度	2018年度
世帯数	17,883	17,814
①維持費／世帯数／月	1,837	1,854
②教区費／世帯数／月	511	496
③教区費／維持費（%）	27.8	26.8
④ミサ奉納金／世帯数／月	865	889
⑤ミサ献金／世帯数／月	523	509

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	973,242,972
宗教活動支出	396,779,231
祭儀費	38,333,753
教化費	39,775,648
補助金支出	21,378,210
寄付金	18,830,064
図書費	5,393,163
出版刊行費	11,226,043
行事費	43,515,256
負担金	24,774,087
会議費	3,206,994
消耗品費	24,104,821
リース料	14,823,718
通信費	13,243,817
旅費交通費	11,597,040
自動車諸費	21,616,514
水道光熱費	79,915,814
接待交際費	17,372,361
非課税事業支出	2,199,849
支払手数料	5,472,079
維持管理支出	122,703,592
修繕費	43,189,793
保守管理費	42,448,160
墓地納骨堂収入	12,840,876
保険料	23,629,692
公租公課	595,071
人件費	277,370,414
給与手当	228,141,953
雑給与	31,521,378
退職金	531,652
福利厚生費	13,440,467
法定福利費	3,734,964
預り金・献金支出	155,916,308
教区費	104,950,212
神学生養成援助費（封筒）	10,499,914
世界こども助け合いの日献金	2,187,107
世界広報の日献金	2,119,084
聖ペトロ使徒座への献金	2,243,908
世界難民移住移動者の日献金	2,177,007
世界宣教の日献金	2,159,266
宣教地召命促進の日献金	2,188,741
特別献金	6,710,529
一菜募金	6,661,223
クリスマス募金	4,437,350
カリタスジャパン募金	5,523,458
その他の募金	4,058,509
その他の支出	20,473,427
雑費	20,473,427
2．経常外支出の部	276,090,823
資産取得支出	58,469,748
土地取得支出	0
建物取得支出	28,767,317
構築物購入支出	10,416,734
器具備品購入支出	19,285,697
繰入金支出	122,116,654
退職給与引当金繰入支出	0
特別目的預金積立金	122,116,654
借入金返済支出	68,740,018
内部借入金返済支出	43,709,251
外部借入金返済支出	25,030,767
支払利息	0
その他の支出	25,686,109
預り金支出	14,323,523
その他の経常外支出	11,362,586
予備費	1,078,294
3．次年度繰越金	729,271,808
支出の部合計	1,978,605,603

会計報告――18年度決算書を受けて

カトリック長崎大司教区の収支決算書が6月18日の教区顧問会で承認された。

収入の部では、教区費の減少傾向が続いている。信徒数も2019年度には6万人を割り込むようなペースで減少している。さらに老朽化が激しい教会も多くなり、その修理などの負担は従来以上に重くなりつつある。

こうした状況を見据え、大浦天主堂キリシタン博物館の開設を機に、大浦天主堂拝観料を千円に値上げさせていただいた。長崎の教会を訪れる方々のご厚意をいただきながら、教会を維持保全するのみならず、福音宣教という形で還元してまいりたい。

支出の部では、予算額と決算額との差異が大きい諸活動部門があることが指摘された。これまでの予算作成は「昨年と同じ」とする場合が多かったことは否めない。

予算を作成するということは、その年度の活動計画を立てるということである。明確な目標を持ち、その目標を達成するためにどれだけの資金が必要かを過去のデータを基に判断し、予算を決める。

さらに、予算と実績を定期的に検証することは、目標に向かってしっかりと前進しているかの判断材料ともなり得るので、予算にもっと重きをおいて、福音宣教という大きな目標に向かって進みたい。

教区会計　岩本繁幸

会議とコレジオ祭

福岡・浄水通で

6月30日（日）から7月1日（月）にかけてコレジオ祭が福岡コレジオ（浄水通）で行われた。これに合わせて会議もあり、本来であれば長崎教会管区の司教団と養成担当司祭だけでの会議だが、今回の最も大きな議題は「コレジオを大神学校に移すか」ということで急きょ、司教団とコレジオ生との会議も開かれた。

神学生は自分の思いをそれぞれ口にし、翌日の会議に委ねられた。コレジオ祭には司教団をはじめとし、司祭、家族、コレジオOBなど約30人が集まり、賑やかな雰囲気の中、立食パーティーが行われ、家族や教区ごとに紹介があり、一日目を終えた。

7月1日のミサは那覇教区のウェイン司教様の司式で行われ、「苦しみを受けている人の心は神様に向いている。相手に寄り添い、その痛みを自分の痛みとして考えて」と話した。沖縄には「いちゃりばちょでー」という言葉がある。この言葉には「一度会えば兄弟」という意味がある。私たちは神の子であり教会に集まる一つの家族であることを忘れてはならない。

福岡コレジオ　神学生　吉原祐則（福江教会出身）

ミサの中で祈る長崎教会管区の司教団（左から鹿児島・那覇・長崎・大分）

召命のお恵みを願って

神学生・志願生のためのミサ

7月7日（日）三ツ山教会で第26回「召命祈願ミサ」が行われた。神学生、志願生、保護者、関係者ら計50人余が参列し、教会の信徒と共に、召命のお恵みを願って祈りがささげられた。

山田良秋師（三ツ山教会主任司祭）は説教の中で「若い皆さんは、なんでも早く吸収できる年代。よく祈り、よく学び、大きく成長してほしい」と励ましの言葉をかけた。信徒の代表も、「具体的に名前をあげながら、これからもみんなで召命のために祈っていく」と約束の言葉を述べた。聖堂は神学生、志願生たちの祈りの歌声が響き、ある信徒は「若者たちの元気な聖歌と祈る姿に感動した」と語った。

ミサ後は、三ツ山教会信徒の厚意でバーベキューが振る舞われ、若者たちは心も体も満たされて、感謝と新たな気持ちを抱きつつそれぞれの帰路に就いた。このミサは、神学生・志願生のため、新しい召命のために、年に2回、長崎教区内外の教会で行われる。

『受けつごう 信仰のきずな』
大山教会 献堂25周年

大山教会（主任司祭・三村誠一師）では、現聖堂が今年で献堂25年を迎えるということで、数年前から『受けつごう 信仰のきずな』をモットーに準備を進めてきた。

その祝祭が6月2日（日）午前11時から同教会で行われ、高見三明大司教を迎え、質素ながら祝賀ミサと食事会を開き、〝信仰の道〟にいっそうの熱意と拍車をかけるよう招かれた。

まず、大司教の主司式により、近隣、長崎南地区司祭団や信者の皆さんとの感謝のミサ。聖堂いっぱいの参加者の祈りのうちに、中学生1人、大人3人の計4人に堅信の秘跡が授けられた。ミサ後は感謝とお祝いの式があり、大司教を中心に参加者全員、受堅者と関係者らの写真撮影があった。

最後は隣の公民館（＝信徒会館）で、参加者皆さんとの「祝賀食事会」。大山教会女性部の皆さんが早朝から集まって作ったごちそうの数々が並び、大山特製の「紅白のふくれまんじゅう」や大山特産・特製の「たけのこ料理」などをいただいて、皆満たされた様子だった。

関係者は、「今25年経っても真新しく感じる聖堂を今後フル回転させ、遠慮なく古建物に仕立てていくよう使いこなしていくのが今からの目標」と明るく語った。

長崎県庁跡地を考える
「考える会」がシンポジウム開催

長崎県と長崎市が県庁跡地を「広場」「文化芸術ホール」へと整備する方針を示している中、同地の歴史的・文化的価値を考えようと「長崎県庁跡地遺構を考える会」主催のシンポジウムが6月2日(日)メルカ築町ホールで開催された。集まった市民ら約350人が、研究者や教会関係者の話に熱心に耳を傾けた。

集いは同会共同代表(総括)の片峰 茂前長崎大学長のあいさつに始まった。はじめに長崎県埋蔵文化財センターから県庁跡地と周辺地区の考古学的調査の報告、日本考古学協会から整備検討に関する問題提起があり、続いて長崎大学多文化社会学部の木村直樹教授、長崎純心大学教授を務める古巣馨師、国立歴史民俗学博物館の久留島 浩館長がそれぞれの研究分野の視点から講演を行った。

パネルディスカッションでは司会者と4人の登壇者が、教会堂や神学校などを含めた「岬の教会」と長崎奉行所が、長崎あるいは日本の中でどのような存在であり、役割を果たしていたかを語り、跡地の十分な調査の必要性、緊急性を浮き彫りにした。古巣師は、〝潜伏キリシタンの信仰伝達〟を可能にしたのは、岬の教会で改訂・編纂された「ドチリナキリシタン」や「こんちりさん」であったことに触れ、「250年こんこんとわき続けた信仰の源流がここにある。一番深い所まで掘ると、その水脈にあたるはずです」と語った。

また、会場からは地元の声として「県庁跡地の発掘調査をする場合にはぜひ一般に公開してほしい」との要望もあった。

最後に共同代表の1人として高見三明大司教があいさつし、県庁跡地遺構の重要性を繰り返すとともに、会の活動に対する理解と協力を願った。

教区 家庭委員会の活動
講演会とDVD鑑賞会

「共に生きる学び」

6月9日（日）「共に生きる学び」の一環として、シスター石岡ヒロ子氏（聖フランシスコ病院修道女会）の講演会が教区家庭委員会南地区主催により開催、会場のカトリックセンター・ホールは約280人の参加者で埋め尽くされた。

参加者はおのおの、自身や家族、友人への思いを胸に集まっていた様子。そこに修道服に身を包んだ小柄なシスターがさっそうと壇上に登場し、早速ホスピス病棟の患者との心の「共鳴」の話から始まった。人生の最後を人間らしく過ごす、人生の最後の仕上げをして旅立とうとする患者とは簡単な気持ちで関わってはいけないという覚悟を持ち、働く。講師は「パストラルケア」を習得し、患者だけでなく家族の心にも寄り添っている。ホスピス病棟には、いつもシスターの笑顔と祈りがあふれ、間違いなくそこは「笑って旅立てる場所」であることを認識した一日だった。

※パストラルケア…病人やその家族の心のケアを専門にすること。

（教区家庭委員会南地区）

教皇のドキュメンタリーDVD鑑賞会

教区家庭委員会北地区は7月7日（日）午後1時半からカトリックセンターで、150余人の参加者を得て「フランシスコ・新大陸から来た教皇」のDVD鑑賞会を開催した。

第266代教皇としてラテンアメリカから初めて選出された教皇様を知る人々の証言を交えてのドキュメンタリーだった。質素を好み庶民的と評され、慈愛に満ちた教皇様が常に弱者に寄り添う姿に感動を覚え、このDVDを貸し出してほしいと問い合わせが来るほどだった。

今秋末に教皇様来崎との報道があり正式発表はまだだが、教区家庭委員会は教皇様を迎える心の準備として、各自が家庭で「教皇様のための祈り」を唱え、1羽の折鶴を折り、教区全体で集め、祈りの花束を千羽鶴に託して教皇様に贈呈することを計画している（2面の記事参照）。各主任神父様にはすでにお願いしているので、皆様のご協力をお願いしたい。

（教区家庭委員会北地区）

叙階式日程など決まる
教区顧問会

教区顧問会が6月18日（火）、大司教館で開催された。主な審議事項は以下の通り。

まず、5月31日に教皇から長崎大司教区の補佐司教に任命された中村倫明被選司教（1面に記事掲載）の叙階式関連について話し合われた。叙階式は、9月16日（月）午後1時から浦上教会で行われることとなった。

次に、2018年度収支決算書案が承認された。毎回、諸委員会活動の予算と決算に大きな差額が見られるのは、活動計画が十分に練られず、従来通りという安易さがあるのではという指摘があった。また、コレジオ生のための「奨学金規定案」が審議後承認され、「奨学金基金」が設立されることとなった。

他に4教会からの依頼が審議された。①深堀教会急傾斜地崩壊対策事業には「教会保全基金」から助成金、②さくらの里聖家族教会信徒会館新築事業には小教区互助基金からの貸し付け、③神崎教会聖堂内エアコン交換事業許可、④黒島教会修復費用に関する長崎教区全体への寄付願い依頼文送付が、それぞれ承認された。加えて、教区内のさまざまな諸問題に対応するため、法律事務所と顧問契約を結ぶことが承認された。

互いの顔を見て話し、笑い合う
第3回髙見杯ミニバレー大会

6月16日（日）12時30分から長崎大司教館体育館で、第3回高見杯が開催された。長崎教区の各地区から青年、司祭が40人余り集い、4チームに分かれてミニバレーを行った。

即興で組まれたチームだったため、最初はぎこちない雰囲気も見られたが、プレーが進むうちに励まし合い、声を掛け合い、好プレー・珍プレーには皆が拍手を送っていた。SNSなどのおかげで互いの情報は何となくは知っていても、やはりお互いの顔を見て話をし、笑い合える機会は青年たちにとって特別で、上五島からの参加者は前日から宿泊をして参加していた。大会の参加費から遠方の参加者の援助も行っている。

第2部の懇親会では、高見三明大司教様にも参加いただいて共に食事をしながら交流を深めた。この日は父の日ということで、青年たちからのプレゼントが大司教様に送られた。

次回の教区レベルでの青年の集いは、8月24日（土）～25日（日）に西海市・伊佐ノ浦公園で開催される「九州青年キャンプ」。青年たちは「またね」と声を掛け合い、再会を約束していた。一人でも多くの青年がこの輪の中に加わり、喜びを一緒に分かち合えることを期待したい。

教区青少年委員会　山口竜太郎

今の、そしてこれからの教会
教区司祭黙想会

今年の教区司祭黙想会は6月11日（火）～14日（金）、大阪大司教区の酒井俊弘補佐司教を説教師に迎え、長崎大司教館で行われた。「今の、そしてこれからの教会」を見渡す材料を紹介しながら、それぞれの司祭が小教区で活用できるように着眼点を示した。

はじめに教会の組織としての姿を共に考え、「識別」を通してより活発に動くことのできるような共同体作りを学んだ。「召命」について、従来の「司祭召命」「修道者召命」という限られた召命だけでは多くの信徒の積極的参加を十分に受け止めることができず、その人に合った「聖性への道」を、教会が示していく必要に迫られている。結果的にそれが受洗者を多くの小教区で与えられることにもつながる。

また、昨今聞かれるようになった性倫理の問題についても、正面から向き合い、問題解決の糸口を探った。さらに青少年の教会離れにも目を背けることなく、「第三の場所（サードプレイス、落ち着く場所）」となれるように教会は変わる必要があると説いた。

最後に、司祭自身は成長の伸びしろがきっとあるので、人間的・霊的・知的・司牧的な生涯養成の環境がますます必要になっているとの指摘もあった。

参加した司祭は、「教会が完成を目指して成長するために、神の民のための多様な召命の引き出しを用意して受け止める時代が来ていると感じた」と語っていた。

サイバー攻撃対策を意識
センター職員らが研修

長崎県警察本部の担当者らが6月20、21の両日、カトリックセンターと大司教館の司祭・職員・関係者を対象に「サイバー攻撃対策について」の研修会を同センターで開いた。2日間とも同じ内容で行い、参加者はいずれかを聴講した。

ネットワークの利用が著しい現代において「サイバー攻撃」は身近に起こりうるもので、脅威の存在。担当者は「完全な防御ができるセキュリティ対策は現在までない」「多重防御」「知識より意識」という考え方を強調した。

また、情報窃取の手口とその対策を紹介するとともに、「ウイルスに感染した場合はすぐにサーバー会社や警察に知らせる」といった対応を取ることも紹介された。

参加者は、「日頃からの意識や状況判断が大切だと思った」「自分が知らないうちに加害者に加担することになっているかもしれないと思うと怖い。常に対策の刷新が必要だ」と話していた。

「貧しい人へ福音を」

湯浅師を迎え 公開聖書講座

教区生涯養成委員会（谷脇誠一郎委員長）は6月16日（日）に2019年度公開聖書講座をカトリックセンター・ホールで開催し、約130人の司祭・修道者・信徒が受講した。

今回は湯浅俊治師（福岡カトリック神学院）を講師に迎え、「貧しい人に福音を宣べ伝える―ルカが伝えるイエス・キリストによる救い」というテーマで話があった。

講師はまずルカ福音書の著者について、彼がユダヤ社会にバックグラウンドがなかったことや、医者であったことで、外国人、病人、罪人などの社会的弱者に目を向けていたことを話した。そして、当時救いの対象外とされていたこれらの人たちに対し、ユダヤ人に限らずすべての人が神の救いに招かれているという、救いの普遍性について説明した。最後に善きサマリア人の話を通して、私たちが隣人に対し、どのようなことを実践できるかを問うた。

受講者の1人は「話が聞きやすく内容も興味深かったので、3時間があっという間に過ぎた」と語った。湯浅師のユーモアと熱意あふれる話を通して、聖書により親しみ、福音の深い意味について黙想する良い機会となった。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場　所　カトリックセンター別館
連絡先　095-865-7829
時　間　月～金　10時～16時
＊休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く。不在時は、留守番電話対応。

相談室室長　マリア　福田真理

訂正

〈カトリック教報〉2019年6月号1面「教区評議会総会 開催」の役員一覧に記していた平戸地区の委員、永谷忠司さんのお名前の漢字を誤っていました。お詫びし、訂正いたします。

短信

〈堅信式〉西町教会では4月28日（日）に中学生8人と大人3人が、また、長与教会では7月7日（日）に中学生13人が、それぞれ堅信の秘跡を受けた。

ぶどう園

▼『マリアの丘から愛をこめて』（平和を祈る音楽朗読会）　8月3日㈯14時、城山教会。入場無料。朗読グループ「水の会」主催。

▼原爆殉難者慰霊祭　8月8日㈭19時、原爆落下中心地公園。雨天＝カトリックセンター。

▼平和祈願祭　8月9日㈮18時、浦上教会でミサ。20時、平和公園へたいまつ行列（雨天中止）。

▼聖母平和祈願祭　8月15日㈭13時、アルカスSASEBO。

▼平戸ザビエル祭・第一部（記念ミサ）　8月15日㈭14時、平戸ザビエル記念教会。

▼浦田カズ代展「現代のイコンを探る」　8月19日㈪～24日㈯、東京・銀座の光画廊。制作者は純心聖母会会員。カトリック美術協会会員、東京純心大学前学長・元教授。

▼長崎平和巡礼演奏ツアー「アジア・アフリカの子どもたちのためのゴスペルチャリティーコンサート」　8月23日㈮18時半、チトセピア。8月24日㈯14時、カトリックセンター。出演・山口雅稔（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）、他。前売千円（サンパウロ、ピエタ、浜屋プレイガイド）、当日1500円。

▼大村殉教祭　9月8日㈰11時放虎原殉教地でみことばの祭儀、13時シーハットおおむらでミサ。

▼公開信仰養成講座『教皇フランシスコ』　9月16日㈪10時～12時、カトリックセンター。講師・阿部仲麻呂師（サレジオ修道会）。500円。申込先（9月14日〆切）・教区生涯養成委員会 FAX 095-841-7732

感謝

―寄付―

●長崎大司教区
●平野様
長崎カトリック神学院
●匿名様（浦上）

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●田中重之様（出津）
故マグダレナ田中エキ様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

みことばにふれて 161

古里 慶史郎 神父（フランシスコ会、本原教会）

マタイ福音書の中で、イエス様が主の祈りを弟子たちに教えられるとき、次のようにおっしゃいます。「あなたが祈るときは……隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。……あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。わたしたちに必要な糧を今日与えてください。わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』」（マタイ6・6～13）。

私は個人的に、主の祈りはそのままイエス様の生き様そのものだと思っています。つまり、主の祈りを唱える時、私はイエス様がガリラヤ湖畔で「神の国は近づいた」（マタ4・17）と福音を宣言なさってからずっと父である神のいつくしみについて語り続け、その後、重い重荷を負っている人々と共に地面に座ってパンを裂き、父なる神への感謝の思いと共に一緒に食べておられたことを思い起こします（マタ14・13以下）。また、エルサレムに向かう前に、慈しみと和解の神の思いを世に証しするためにペトロに「七の七十倍までも赦しなさい」と教えられ（マタ18・21以下）、最終的には十字架上の苦しみの中にあっても、自らを罵倒する群衆に向かっては「父よ、彼らをお赦しください」と赦しととりなしの祈りを最後まで続けられました（ルカ23・34）。その生涯は、最初から自分の名誉や欲望の成就への悪魔の誘いを退け（荒れ野の誘惑・マタ4・1以下）、最後の受難を受ける直前にはゲッセマネでひたすら「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」と祈り続けた生涯でした（マタ26・39）。

ですから主の祈りを唱える時、私たちはイエス・キリストの生涯に立ち会っていることになると感じることができます。

しかしもう一つ、主の祈りは、何もかもご存じの父なる神に、誰でも、どこでも、いつでもすぐに口にすることのできる短い祈りでもあります。

以前、内戦中のアフリカのある国でゲリラの捕虜となり、4カ月半もの間ジャングルの密林の中で明日殺されるかもしれないという状況に置かれていたシスターにお話を伺う機会がありました。そのシスターによると、最初のうちは捕虜のみんなが輪になって、大丈夫、助けが来るからと励まし合っていたのが、やがて時がたつにつれ、極限状態の中で皆の心がばらばらになり始め、心が反応しなくなり、立ち上がる力もなく横になり、最後に残されたのは、毎日の習慣となっていて体が覚えていたロザリオを繰り続けることだけでした、ということでした。長崎の迫害下でも同じことがあったでしょうか。しかしそのような祈りこそ、実は計り知れない力があると思います。神はすべてをご存じです。主の祈り、ロザリオの短い祈り。すべてを信頼して、この短い祈りを毎日素朴に唱え続けていけたら素晴らしいですね。

ペトロ 松田 猛さん

（松田聡史師の父）

6月9日、長崎市の愛宕病院で逝去。89歳。

1930年6月9日長崎市に生まれ、小学校教師として34年間務めた後、長崎地区カテキスタ養成委員会発行の『まるちれす』や、まるちれす編纂委員会発行の『恵みの風に帆をはって』などの編纂に関わり、子どもの要理教育書作成のために尽力した。美術の才能を生かし、島原教会や雲仙教会のステンドグラスのデザインなどにも携わった。松田聡史師は「父はたくさんの宝物を残してくれました。それは神父様方や多くの方々との関わりの中で作らせていただいた作品です。私たち家族は、そこで父との思い出、父の生きた証しをくみ取ることができます。皆様に感謝」と語った。

葬儀ミサ・告別式は11日、高見三明大司教主司式により、多くの司祭・修道者、信徒らが参列し中町教会で行われた。

マリア 松下ミノ修道女

（お告げのマリア修道会）

6月20日逝去。92歳。

1926年長崎市生まれ。71年初誓願、77年終生誓願宣立。

入会してから老人施設や保育園で給食を担当し、司祭館奉仕者として奉仕した。事業所を退いてからは、修道院で花や野菜を作りながら祈りと環境整備に努めた。がんに侵されながらも明るい性格は変わらず、積極的に人と関わり福音を伝えた。帰天1週間前に帰院し、姉妹たちと穏やかに感謝の日々を過ごした。

葬儀ミサ・告別式は21日、出津教会で行われた。

マルガリタ マリア 末吉英子修道女

（お告げのマリア修道会）

7月5日逝去。90歳。

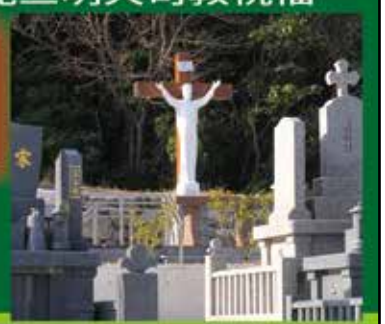
1928年佐世保市生まれ。53年黒島修道院に入会。60年初誓願、67年終生誓願宣立。

黒島保育園、桐保育園の調理員として勤務、その後約20年間、神学生・志願者の心身の糧を準備し、母親のような愛を注いだ。70歳ごろから肺がんで両胸を患ったが、修道院での調理、野菜の栽培で多くの人をもてなし、持ち前の明るさで人と喜びを分かち合った。病床には信徒・司祭・修道者が絶えず訪問し、ユーモアと信仰に満ちた会話を楽しんだ。くしくも終生誓願を宣立した記念の日にロザリオを唱えながら天に帰った。

葬儀ミサ・告別式は7日、相浦教会で行われた。

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

ペトロ岐部と187殉教者列福式記念墓地・高見三明大司教祝福
カトリック長崎中央墓園
所在地：長崎市田中町3450番地6～7　既存道名：中尾木場（木場峠付近）
開発総面積：2648.66㎡　付帯設備：照明、水道、管理棟
自然の中で故人と静かに語りあえる天の門

（区画/規格：1.5m×2.0m　3.0㎡）基礎1区画（黄・桜・白）……174万円（内　永代使用料150万円）　管理費（10年分）6万円（消費税込）
月額2万円より分割可能
◆自由区画もあります
（納骨堂式）納骨堂式1基（3段）……74万円（内　永代使用料120万円）　管理費（10年分）3万円（消費税込）
平成31年　バリアフリー仕様（出入口・車椅子対応）
駐車場26台以上完備
トイレ・給水設備完備
十字架墓標新規完備
ゴミステーション完備
墓地管理委員会
〒850-0055 長崎市中町1-13 カトリック中町教会内　代表　主任司祭　葛嶋秀信
TEL　095-823-2484　FAX　095-823-2486
問い合わせ
有限会社 長崎鉱業商事（石材部　鉱業石材）
〒850-0066 長崎市大浜4丁目550-111　TEL 095-834-4918　FAX 095-834-4912